# I am Jazz!（ジャズ・スーパー列伝）

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

## Vol. 41
## Stan Getz【スタン・ゲッツ】
### ～“クールテナー”と称された名テナー・サックス奏者～

Photo from " Kind of Getz" ／ Stan Getz (Brilliant Jazz)

**Profile**

1927 年 2 月 2 日、米国ペンシルヴァニア州フィラデルフィアのセント・ヴィンセント病院で産声を上げる。本名は Stanley Gayetzky。レスター・ヤングに憧れ、13 歳の頃に父に買ってもらったサックスで演奏を始める。43 年にジャック・ティーガーデン、44~45 年にスタン・ケントン楽団、ベニー・グッドマン楽団、47~49 年にウディ・ハーマン楽団で演奏する等、10 代半ばから有名バンドに参加。初期はクール・テイストのジャズで名声を確立。独立後、自己のカルテットを結成し、51~52 年には北欧にツアーに出るなど人気が沸騰した。だが、同時に麻薬に溺れ、54 年には注射用のモルヒネ欲しさにシアトルの薬局で強盗未遂事件を起こして逮捕される。ヘロイン中毒で実刑判決を受け、半年間の服役後、レコーディングや欧州ツアーに出る等、活動を再開。北欧ツアーではスウェーデンに魅せられ「ディア・オールド・ストックホルム」を発表し、そのメロディーを世界中に広めた。また、スウェーデン女性と結婚後、コペンハーゲンに移住し、ジャズ・シーンから遠ざかっていた時期もあったが、61 年に帰米。復帰作としてチャーリー・バードと『ジャズ・サンバ』を発表。63 年にはジョアン・ジルベルトと共演したアルバム『ゲッツ／ジルベルト』が大ヒットし、最優秀アルバム賞、最優秀シングル（「イパネマの娘」）等、グラミー賞 4 部門を独占し、ボサ・ノヴァ・ブームを巻き起こした。72 年にはチック・コリア等とコンボを結成し話題を呼んだ。その後もジャズ祭に出演するなど精力的に音楽活動を展開。80 年代もコンスタントに音楽活動を続ける。遺作は 91 年発表のケニー・バロンとのデュオ・アルバム『ピープル・タイム』。1991 年 6 月 6 日肝臓癌の為、カリフォルニア州マリブで死去。享年 64 才。

## SG's Great Album

初期のクール・ジャズ時代の作品は勿論、ボサ・ノヴァ・ブームを巻き起こした名作から晩年の作品まで、数多くのリーダー・アルバム、名盤・名演が残されている。

「ディア・オールド・ストックホルム」収録の若きスタン・ゲッツの人気盤

### ザ・サウンド
### スタン・ゲッツ

（ワーナーミュージック：TOCJ-9401）

スタン・ゲッツ (ts)、ホレス・シルヴァー、アル・ヘイグ、ベングド・ハルベルグ (p)、トミー・ポッター (b)、他

1. ストライク・アップ・ザ・バンド 2. トゥーツィー・ロール 3. スイーティ・パイ 4. イエスタデイズ 5. ハーシェイ・バー（他、全 12 曲）

1950 年 NY ＆ 1951 年スウェーデン・ストックホルムで吹き込んだゲッツ初期の傑作。ゲッツの「ディア・オールド・ストックホルム」（スウェーデン民謡）が最初に収録されたアルバムとしても知られ、この名演を機に多くのジャズマンが取り上げることになった。スウェーデンのピアニスト、ベングド・ハルベルグのプレイも光る。20 代前半の若きゲッツのサウンドと NY とスウェーデンでのそれぞれのセッションの聴き比べも楽しめる。

イースト・コーストをぶっ飛ばせ！スタン・ゲッツの50年代の代表作

### ウエスト・コースト・ジャズ
### スタン・ゲッツ

（ユニバーサルミュージック：UCCU-6251）

スタン・ゲッツ（ts）、コンテ・カンドリ（tp）、ルー・レヴィ（p）、リロイ・ヴィネガー（b）、シェリー・マン（ds）

1. イースト・オブ・ザ・サン 2. フォア 3. サドンリー・イッツ・スプリング 4. チュニジアの夜 5. サマータイム 6. シャイン

1955 年録音。当時 NY を中心に熱い盛り上がりを見せていたハード・バップに啖呵を切るが如く、ゲッツが西海岸を代表する豪華メンバーを従え、東海岸ジャズ・シーンに真っ向から挑んだ作品。当時はこの両ジャズ・シーンの対抗意識や共演があったからこそジャズが熱かった。西海岸ジャズを象徴するクールさだけでなく力強いプレイも最高。ノーマン・グランツプロデュース。デビッド・ストーン・マーチンのジャケットも印象的。

世界的にボサ・ノヴァ・ブームを巻き起こした大ヒット＆永遠の名作

### ゲッツ／ジルベルト
### スタン・ゲッツ＆ジョアン・ジルベルト

（ユニバーサルミュージック：UCCU-6003）

スタン・ゲッツ (ts)、ジョアン・ジルベルト (g, vo)、アントニオ・カルロス・ジョビン (p)、トミー・ウィリアムス (b)、他

1. イパネマの娘 2. ドラリセ 3. プラ・マシュカー・メウ・コラソン 4. デサフィナード 5. コルコヴァード 6. ソ・ダンソ・サンバ（他、全 8 曲）

グラミー賞 4 部門を独占。アストラッド・ジルベルトが英語で歌って世界的大ヒットとなった「イパネマの娘」でも有名な世にボサ・ノヴァ・ブームを巻き起こした大ヒット・アルバム。録音は 1963 年。ボサ・ノヴァの神様ジョアン・ジルベルトとスタン・ゲッツ、ピアニストはアントニオ・カルロス・ジョビン、プロデューサーにはクリード・テイラーを迎えた夢のセッション 8 曲を収録。翌 1964 年にライヴ録音された同タイトル作品も必聴。

### ゲッツとボサ・ノヴァ

ボサ・ノヴァの創始者とされるのはアントニオ・カルロス・ジョビン、ジョアン・ジルベルト、ビニシウス・ジ・モラエスの 3 人。また、ジルベルトの SP 盤『シェガ・ジ・サウダージ』は、ジョビンの後押しによってレコーディングされたボサ・ノヴァの起源とされるレコード。このブラジルが生んだボサ・ノヴァと出会うことで、長年に渡るドラッグによる荒れた生活から立ち直り、一躍時代の寵児となったジャズマン、それがスタン・ゲッツだ。『ゲッツ / ジルベルト』の空前の大ヒットはゲッツのクールなテナーがほのぼのとしたボサ・ノヴァにマッチした結果だ。

### ゲッツとロック

現代ではジャズマンがロックの名盤に参加することはそれほど珍しいことではなくなったが、テナー・サックス奏者では、1981 年にローリング・ストーンズのアルバム『刺青の男』のレコーディングに参加したソニー・ロリンズが有名（演奏曲「友を待つ」はシングルカットされ、全米シングルチャートで 13 位を記録）。ゲッツは 1988 年にヒューイ・ルイス＆ザ・ニュースのアルバム『スモール・ワールド』に参加。演奏したのは 5 曲目「スモール・ワールド（パート 2）」。シングルカットはされなかったが、アルバムはビルボード 200 で 11 位を記録。

# Jazz Standards（ジャズ名曲列伝） Vol.14

## ~ Donna Lee【ドナ・リー】~

この曲はチャーリー・パーカーが作曲者となっているが、後にマイルス・デイヴィスが自伝の中で自分が作った曲だが、レコード会社が表記を間違えたと語っており、真相は不明。チャーリー・パーカーが 1947 年 5 月 8 日にサヴォイに録音したものがオリジナル。曲のタイトルはカーリー・ラッセル（b）の娘の名前に因んだとされている。ジャコ・パストリアス（b）のソロ・デビュー作『ジャコ・パストリアスの肖像』収録のヴァージョンは有名。

★ この名曲が聴けるお薦めのアルバム

チャーリー・パーカー『チャーリー・パーカー・メモリアル Vol.2』
クリフォード・ブラウン『ザ・ビギニング・アンド・ジ・エンド』
アート・ペッパー『アート・ペッパー・プラス・イレヴン』
ジャコ・パストリアス『ジャコ・パストリアスの肖像』
納浩一『琴線』